

あれこれ通信

Tel / Fax 0493 62 7997
http://space.tcm-shibuya.com
e-mail 713@tcm-shibuya.com

渋谷とみ子の議会報告No.80



今の時代こそ、女性リーダーが必要です。

おじさん議員はいりません！！普通センスの女性議員がほしい。
毎日のごはんをつくり、子どもやおとしよりや女性たちがともに生きて 一つ一つの命を大切にするために、小さい声を聞いて、自分の視点で、考え、発言できる議員がほしい。

議会には、町長の提出する議案を賛成と反対をする議案審議と、町にはたらきかける一般質問と、議会が条例を作る政策づくりと、国や県に意見書を提出する役目があります。多くの議会は政策づくりや国への意見書を提出するのは苦手です。

今まで、国への意見書の提出は、議案審議する前に話し合って全員賛成がわかった場合、議会運営委員会委員長が議案提出者でした。9月より、意見書を提出しようと働きかけた議員が、提出者になるので、議会報にも提出者として名前がでるようになりました。9月議会では、意見書が9本提出されました。活発な議会になりました。政党から提出するよういわれている意見書、住民のみなさんからの請願による意見書もあります。

困っている事の一つは、小中学校のクラス定員です。国・県の基準では小学校1,2年生は1クラス35人です。1学年36人だと18人ずつの2クラスになります。1学年35人だと1クラスです。菅谷小学校3年生は76人です。1,2年生の時は、3クラスで1クラス子ども数は25~26人でした。3年生になると国・県の基準は1クラス40人です。

菅谷小の3年生は1クラス38人の2クラスになりました。25~26人のクラスが38人のクラスです。1クラスの人数が急に12人も増えるとクラス運営が難しくなります。菅谷小だけでなく、全国共通の悩みです。

学校の現状を解決してほしいと国への意見書「すべての学年の1学級の定員を35名にし、格差が広がっているので、父母が負担している教材費を、国が負担する制度にしてほしい」を提出する議案は、9月議会では下の表のとおり否決でした。12月議会では、「小学校1年生1クラス35人を1クラス40人に戻さないでください。すべての学年を35人学級にしてください」という意見書の議案が提出されます。どうなるか…

原発震災後、「原発事故子ども・被災者支援法」が、国会議員全員賛成で成立しました。が、国は「原発事故子ども・被災者支援法」を無視して、放射能被ばくした子どもの甲状腺がんや白血病になる危険性を危険ではないとしています。「放射能被ばくした子どもたちに健康な生活を保障してください」という国への意見書提出も嵐山町議会否決です。国に従うのではなく、議員は自分で調べるべきです。

政党の政策、会派の意向、政府の財政政策ではなく、地域の実情から国のあり方を考える人が必要です。

は賛成・×は反対・は提案者、欄外の(1)(2)は正式な意見書タイトル	森一人	大野敏明	佐久間孝光	長島邦夫	嵐山みゆき	吉場道雄	河井勝久	川口浩史	清水正之	安藤欣男	松本美子	渋谷登美子	青柳賢治
35人学級にし、親の負担を少なくすることを求める内容の意見書(1)	×	×	×		×	×				×	×		議長
原発事故子ども・被災者支援法に基づく支援を求める意見書(2)	×	×	×	×	×	×				×	×		

(1)現状の課題に対応する義務教育制度改革を求める意見書 (2)原発事故子ども・被災者支援法にもとづく施策の拡充と早期実施を求める意見書